

TOKYO MIDTOWN
STYLE

東京ミッドタウンスタイル



VOL. 41
AUTUMN 2019

写真 / 右ページ・上「SEASONS V」(90×60cm) LUIS MARIANO GONZALEZ 70,371円 下「OMOTESANDO」(40×50cm) XABI ETCHEVERRY 9,908円 左ページ・右上「FIAC 2004」(40×50cm) JEAN-PAUL ESPAGNET 8,982円 右下「WATER LILY」(40×50cm) MIGUEL VALLINAS 10,926円 左上「ESCAPE V」(40×50cm) MICHAEL MONNEY 9,908円 左下「LIPS II」(40×50cm) RASMUS MOGENSEN 10,926円 フレーム各¥5,926 / すべて YELLOWKORNER

Shop Data
YELLOWKORNER / イエローコーナー
プラザ B1
☎ 03-5843-1765



静から動へ、明るい雰囲気から癒やしへ。流れる音楽一つで、その場の空気がからりと変化するように、部屋に飾る一枚の写真にも、空間を新しくする力がある。2006年にフランス・パリで誕生した「YELLOWKORNER」は、日常のなかでアートフォトと身近に暮らすことを提案するブランド。若手から著名作家まで約200組のアーティストによる1500点以上の作品を、お気に入りの一曲を選ぶような感覚で気軽に手に入れることができる。新しい季節になる前に、大切なゲストを迎える日に、気分転換したいときに。好みのアートフォトで、部屋を“着替える”楽しみを見つけない。

TOKYO MIDTOWN STYLE
Essence of Creation

vol.4

空間をドラマティックに変貌させる
アートフォトの魔法

BEAMS HOUSE

ビームス ハウス

千鳥格子のジャケットは モノトーンでモダンに

クラシックな千鳥格子ジャケットは黒のタートルネック&スラックスに合わせるのが今シーズンの提案。黒のもつモード感がスタイリッシュな千鳥格子を新鮮に見せてくれる。ジャケットはイタリアの老舗メーカー「イー・トーマス」の柔らかな生地を日本人に合うパターンで仕立てている。ジャケット 90,000円(ブリッラ ヘル イル グスト)、ニット 22,000円(ビームスF)、パンツ 29,000円(ジャプス アルキヴィオ)、ポケットチーフ 6,300円(フマガッリ)、シューズ 29,000円(ボルベッタ)以上BEAMS HOUSE コンソール 392,000円、花器 53,000円、フォト 76,000円 (Yoshitaka Koshiyaオリジナルプリント) STYLE MEETS PEOPLE

LIFE WITH MODE & ART

モードとアートを日常に

最新のモードがショーウィンドーを飾る、心躍る季節。ファッションだけでなくライフスタイルにも新しい息吹を感じたくなる。たとえばインテリアにアートや写真、モダンデザインを取り入れて。この秋は、モードとアートの融合を楽しみたい。

Photos : Masashi Ikuta Text : Hisami Kotakemori Styling : Masahiro Tochigi Hair&Make-up : Keita Iijima(mod's hair) Models : Saira Kunikida, Hideki Asahina

The SECRET CLOSET

ザ シークレットクローゼット

フェミニンなAラインの 揺れるドレスを手に入れて

今季バリのランウェイショーでも注目された「シクラス」のドレス。スカートバック部分が、二重仕立てになっていて、歩くと上布がヒラヒラと流れるデザイン。袖も長めのベルスリーブながら、ブラックのトリミングが甘さを抑え大人のルックスに。ドレス 270,000円、シューズ参考商品(シクラス) / The SECRET CLOSET フォト(左)「COCO」(40×50cm) KATE SCOTT 9,908円 フレーム 5,926円(右)「TANGLE」(40×50cm) KATE SCOTT 9,908円 フレーム 5,926円 / YELLOWKORNER



ZANELLATO &
PELLICO

ザネラート & ペリーコ

バッグとパンプスは気分が
華やぐゴールドのコンビを

今季の新作バッグ、「ニーナ」のスーパーベビーサイズは4ウェイで使えるデザインが秀逸。ポイントドットウにきらびやかなメタリックレザーが華やぎを添えるパンプスは11月中旬に展開される新木型。バッグ (H11×W19×D5cm) 69,000円 / ZANELLATO シューズ (8cm) 52,000円 / PELLICO ディフューザー「アンエールドゥディプティック」38,500円 / diptyque 六本木 コンソール 392,000円、ミラー 157,000円 / STYLE MEETS PEOPLE ※外枠のフォト「COCO」(40×50cm) KATE SCOTT 9,908円 / YELLOWKORNER

DRAWER

ドゥローワー

ボリュームコートをシックな
ベージュのワントーンで

凛とした強さと品格を備えたビッグショールカラーのコートは、軽くて暖かいウールダブルフェイス素材。たっぷりとしたボリューム感をサイドスリットで軽やかに。インナーはカシミアのタートルネックニット、パンツはベージュになじむ深いピンクで、モードなワントーンに女性らしさを添えた着こなしに。コート160,000円、ニット83,000円、パンツ46,000円 (すべてドゥローワー) / DRAWER 花器(左) 59,000円、(右) 65,000円 (ともにグイド・デ・サン)、ドローイング430,000円 / IDÉE SHOP





ISAIA Napoli &
HELEN KAMINSKI

イザイア ナポリ&ヘレンカミンスキー

ラグジュアリーなコートに
存在感のあるハットを

毛足が長く程よい光沢のある、ラグジュアリーなヤク100%のボロコート。弾力性があり、シワになりにくく、防水性と保温性も備えているのが魅力。ナチュラルなショルダーラインのコートには、ツバが広めのハットがマッチ。ブラウンの優しいコートに、チャコール×レッドリボンの配色が映える。ウルトラファインウールフェルトのハットは、スペインの伝統的ファクトリーで、ハンドメイドで作られている。コート420,000円(イザイア) / ISAIA Napoli ハット38,000円(カミンスキー) / HELEN KAMINSKI

JOHN LOBB

ジョンロブ

美しいフォルムの靴で
クラス感を身につける

一枚革で作られた優美なサイドモンクシューズが、日本限定モデルとしてこの秋再登場。フォーマルスタイルにも活躍のストレートチップは東京ミッドタウン限定。上質な一足があれば、どんな場面にも自信と余裕をもって臨める。シューズ〈上〉268,000円(シューヅリー付き)、〈下〉175,000円 / JOHN LOBB

Valextra

ヴァレクストラ

優雅な佇まいが魅力の
グレーのブリーフケース

合わせるスーツを選ばず、ブラックよりコンテンポラリーなグレー。ソフトカーフスキンの軽量型ブリーフケースは、内側にはジッパー式ポケット、フラットポケット4つ、ペンループ2つを装備。ブリーフケース (H30×W41×D8cm) 315,000円 / Valextra



STRASBURGO

ストラスブルゴ

エレガントなスーツを
クルーネックニットでこなす

定番のダブルブレストスーツは、ネイビーにうっすらと織り込まれたレッドのストライプがエレガント。ジャケットはアンコン仕立てのモダンなフィットで、パンツのシルエットは細めにアップデートされている。インナーには、カシミアニット。ネイビーにグレーの洗練された配色で上品なムードに。スーツ168,000円(ラルディーニ)、ニット127,000円(イル・ボルゴ) / STRASBURGO フロアスタンド240,000円 / IDÉE SHOP



ASPESI

アスベジ

グレンチェックのコートで カジュアルにも品格を

英国調のトレンドが落とし込まれたグレンチェックのコートは、大きめにあしらわれた柄が印象的。襟元にヴィンテージスウェット風のデザインを取り入れたニットやセンタープレス入りのパンツを合わせて、ミックス感がありつつ、上品なモードカジュアルな着こなしが完成する。コート163,000円、ニット29,000円、パンツ29,000円(すべてアスベジ) / ASPESI 六本木 フォト「MADRID NOCHE」(40×50cm) LAURENT DEQUICK 11,945円、フレーム5,926円 / YELLOWKORNER バドル(左)26,500円、(右)参考商品 / IDÉE SHOP



ISETAN SALONE

イセタンサローネ

ベルベットが美しい タイムレスな名品

バッグの中央にベルベットで繊細に織られたメリディアーナ(日時計)がアイコン。シリーズを代表する「バゴンギ」はグレース・ケリーにも愛された傑作。ドレスからカジュアルまで、どんなシーンでも主役になる。バッグ(H14×W27×D12cm)230,000円(ロベルタ ディ カメリーノ)、ドレス参考商品、リング260,000円(シンティランテ) / ISETAN SALONE (※ロベルタ ディ カメリーノのポップアップショップが10月16日～29日開催予定) フロアスタンド95,000円 / TIME & STYLE MIDTOWN ※外枠のフォト「HIGH」(40×50cm) LAURENT DEQUICK 11,945円 / YELLOWKORNER

1. Duffle Coat



ファッションジャーナリスト
増田海治郎さん
Kaijiro Masuda

フレンチシックな
スタイルが再燃の予感

「この3~4年、パリのランウェイを支配していたストリートの流れが一段落して、今季は小さなトレンドが混在した状態に。そのなかでも、『セリヌ』のエディ・スリマンが打ち出したフレンチシックにロックを融合したスタイルは、日本人にも親和性が高く、個人的にも注目しています。『ルイ・ヴィトン』を筆頭にテラードジャケットが戻ってきたのも大きなトピックで、遊びのあるスーツやセットアップにも食指が動きます。クラシコ系のトレンドセッターは、引き続き『ラルディーニ』。クラシコイタリアにモダンな要素を取り込んで、今季はアメリカントラッドとのミックスを提案。私自身も最近、久々にきれいな色のダッフルコートが着てみたくなったり、早くもフレンチに触発されています。世界の名品を自由な発想で組み合わせるのがこのスタイルの醍醐味だから、大人にこそすすめたい。80年代に流行したB.C.B.G.(bon chic bon genreの略称。シックで趣味のよいファッション)にサイドゴアブーツやレザーなどでロックテイストをまぜたり、自分の好きな古着などをミックスして、変化球のフレンチスタイルを楽しみたいですね」

Profile
1972年、埼玉生まれ。神奈川大学卒業後、雑誌編集者、繊維業界紙記者を経てフリーランスに。7年連続で海外メンズコレクション取材。著書に『渋谷が、わたしを作った。』(講談社)がある。

3. Chelsea Boots



2. Lardini



1. 90年代に人気を博したダッフルコートを復刻別注。老舗のウールヘリンボーン素材。158,000円(インパーティア)/BEAMS HOUSE 2. チェックのプリント生地を使ったアンコンジャケット。116,000円(ラルディーニ)/STRASBURGO 3. 型押しオイルドレザーのブーツ。180,000円(エドワードグリーン)/STRASBURGO ★(右下) セリヌはボーダーTのフレンチコーデにライダースやブーツでロックを融合。(左下) テラードジャケットのレイヤードが斬新なルイ・ヴィトン。

1. Unbalance



2. Purple



3. Pleated Skirt



JW Anderson

1. フロントのドレープが美しいアンバランスなブルオーバー。43,000円(AKIRANAKA)/ISETAN SALONE 2. ストレスフリーな着心地のボタンスカーディガンは旬のパープルを。25,000円/CABaN 3. フラワープリントをクラシカルにアレンジしたプリーツスカート。45,000円(ANAYI)/essence of ANAYI TOKYO ★(右下) ケープがマニッシュなコートに女性らしさを添えるJWアンダーソンのルック。(左下) ドリス ヴァン ノッテンのプリントアイテムにはクチュール感が。



ifs 未来研究所 所長
川島蓉子さん
Yoko Kawashima

モードが発信する
手仕事の感触に注目

「フォルムやシルエットに特徴のあるアンバランスなデザインはモードを象徴する大きなトレンドだと感じています。左右が非対称なトップス、袖が大きく膨らんでいるコート、裾の長さに変化のあるスカート…。これらは一点取り入れるだけで旬のスタイルが完成するパワーアイテム。大量生産、大量消費の見直しなど、時代が大きなターニングポイントを迎えている今、ファッションも長く愛せるクチュール的なもの、あるいはエシカルでサステナブルなものを取り入れて、暮らしの豊かさを感じたいという傾向が高まっています。私自身も職人の手仕事の感触がある一点モノに心惹かれています。この秋ワードローブに取り入れようと思っているのは、ケープ使いのアイテム。コートはもちろん、ニットなど軽いものにも多く、クラシックでエレガントなムードが演出できます。フェミニンなロングプリーツスカートも買い足したいアイテム。着こなしが華やぐプリントのテキスタイルで探しています。トレンドカラーでは凛として品位を感じるパープル。ブラウンやキャメルとも相性がよいので、シックな雰囲気でもコーディネートしようと思います」

Profile
1961年、新潟県生まれ。早稲田大学商学部卒業、文化服装学院マーチャンダイジング科修了。身近な未来のために、豊かさや幸せを感じる「モノ」や「コト」を考え、さまざまなプロジェクトに携わる。

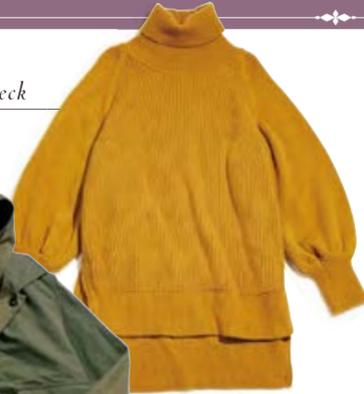
ファッション業界で
活躍する3人に
インタビュー

この秋の
注目トレンド &
ウィッシュリスト

視点が違うファッションのエキスパートに、注目すべきトレンドと個人的に欲しいものをインタビュー。ぜひショッピングの参考に。

Photos: Hitoshi Fujimaki (FLAME) Styling: Kazuyo Tateishi Text: Hisami Kotakemori
Cooperation: IMAXtree

1. Turtleneck



スタイリスト
杉本学子さん
Noriko Sugimoto

ワントーンや
レイヤードでモダンに

「ここ数年、ランウェイでも目立つワントーンスタイルは、今シーズンも大きなトレンド。上下の色を合わせるだけで、とてもシックに見えるのが魅力です。ワントーンが簡単にかなるセットアップは多様化が進み、選びがいがあります。流行色はブラウンからベージュと茶系のパレット。昨年からのブリティッシュの流れで英国調のチェック柄も多くなっています。ライフスタイルの一環としてファッションを楽しむ人が増えていることもあり、アウトドアにインスピレーションを得たようなアイテムや、アースカラーの人気も高まっています。着こなしとしてはレイヤード。タートルネックとシャツを重ねたり、ショート丈のビッグアウターにロングシャツ&細身パンツのような組み合わせも今年っぽい。トップスにボリュームを持たせるコーディネートは私自身も好きで、今年はビッグシルエットのダウンやボアコートを予約済み。足元はローファーやフラットシューズが気分です。最近では、ビットローファーの定番も増えています」

Profile
1982年、東京都生まれ。文化服装学院スタイリスト科卒業。祐真朋樹氏のアシスタントを経て2008年に独立。レディス、メンズともに造詣が深く、広告、ファッション誌を中心に幅広く活躍。

3. Bit Loafer



JIL SANDER HYKE

1. イタリア製のカシミアシルクを使用したタートルニット。120,000円/ADEAM 2. フード付きベストとリバーシブルコートのレイヤードでマルチな表情。88,000円(リト)/ISETAN SALONE 3. スエード素材でソフトな印象のビットローファー。(H1cm)27,000円/FABIO RUSCONI ★(右下) アウトドアブランド、ザ・ノース・フェイスとのコラボも4シーズンめのハイク。なかでもダウンは人気商品。(左下) ジル サンダーは、洗練されたワントーンレイヤードを多様に提案。

DESIGN
& ART

東京ミッドタウンで楽しむ 秋のデザイン&アート

東京ミッドタウン秋恒例のイベント「DESIGN TOUCH」がいよいよ開幕する。国内外の第一線で活躍するデザイナーや注目のデザインが集合し、美術館やデザイン施設でもさまざまなイベントが開催される。さあ、五感でデザインを体感しに出かけよう！

Photos : Hiroaki Shinohara (Portrait) Text : Arata Sakai (P15~16) Hisami Kotakemori (P17~18)



右/「燕三条 工場の祭典」ポスター ©「燕三条 工場の祭典」実行委員会 左/「Life Stripe」©SPREAD



イベント期間中、ミッドタウン・ガーデンに出現する、SPREADによる色鮮やかな「六本木カラー渓谷」(イメージ)。

ライフスタイルをポップに彩る
クリエイティブ・ユニット

SPREADが 考えていること

「DESIGN TOUCH」でミッドタウン・ガーデンを
“色の渓谷”に変えるSPREAD。
彼らの色に託す思いとは？

雪国の暮らしが
教えてくれた色の力と魅力

空間を色で装飾するインスタレーションがミラノ・デザイン・ウィークでも注目されたSPREAD。色の持つパワーに着目する独自のクリエイションの原点にあるのは、山田春奈さんと小林弘和さんの二人が学生生活を送った新潟県長岡の冬の暮らしだ。

「一面雪に覆われて白一色になります。だからいつも雪解けのあとを想像しているんです。雪の下から土が見え始め、緑に覆われ、桜がピンクの鮮やかな花を咲かせる。美しい色の記憶をよりどころに、冬を送っていたのだと思います」と小林さん。「もっと色の持つパワーを感じたい。そして色を使って人の感情を揺り動かす体験をつくりたいと思いました」

「そこから「カラーとコンセプト」をベースにしたSPREADのユニークなアートワークが始まる。

その一つが「Life Stripe (ライフストライプ)」だ。生活のシーンを、例えば「睡眠」「青」といった独自のルールを定めることで、人や動物の一日の行動を21色のカラーに置き換えた、いわば色で描いた、生活の模様だ。「見単純な色分けにすぎないように見えますが、ほとんど寝ずに仕事をしているとか、〇〇な時間が長いとか、可視化することにより日々のLIFEが言葉や映像とは違う形で浮かび上がります。それが生きているという実感につながるっていいんです」と山田さん。

鍛冶や木工などの技術で知られる新



SPREAD

山田春奈と小林弘和によるクリエイティブ・ユニット。さまざまなプロジェクトに深く関わりながら、「カラーとコンセプト」を特徴とし、グラフィック、プロダクト、エキシビションなどのデザイン、ディレクションを行う。「国立新美術館開館10周年」記念ビジュアルのデザインで話題を集める。

新潟県燕三条エリアで開催する「燕三条工場の祭典」では、金属加工の炎と工場の警戒標識のモチーフを変換し、大胆な「ピンクストライプ」のイメージビジュアルを提案。ポスターだけでなく、Tシャツにも使うことで、町工場が一体となって前に進んでいくパワーをつくりだした。

10月18日から東京ミッドタウンで開催される「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2019」では、「景色に浸る」をコンセプトに、大規模なインスタレーションを展開。約80mの道の両側の木々が鮮やかな色とりどりのメッシュ素材のファブリックで覆われることにより、普段見ている風景が一変する。「風になびく鮮やかな色の連なりは、地形は同じでありながら、まったく異なる風景をよみがえらせ、記憶を刺激します。一つのランドスケープが複雑的な意味を持ち始めるのです」と二人。エネルギーに染み込んだ、自然とデザインの融合を楽しみたい。

3
VIA BUS STOP
ヴィア バス ストップ



4
PLAIN PEOPLE
プレインピープル



3. スクエアハンドルが洒落た
バッグは限定店舗のみ

スクエア型バッグがお得意の「マージ シャーウッド」。ホワイトの型押しレザーにゴールドのハンドルが上品なミニバッグは、ジャバラ状で容量もあり、パーティーからカジュアルまで万能。ショルダーストラップ付き。(H16×W13.5×D12.5cm)69,000円/VIA BUS STOP

4. 人気デザインをカシミア混で
贅沢にコラボレーション

ノースリーブにケープのような袖がついたワンピース。袖のラインがスポーティなロングカーディガン。ニット専門ブランド「イントウーカ」のヒットアイテムを肌触り極上のカシミア混ウールで、限定展開。各82,000円(イントウーカ フォープレインピープル)/プレインピープル

1. ロングセラーのドレスに
淡いピンクの限定カラーが

裾のプリーツのディテールやウエストのグログランリボンがポイントのAラインドレスは、人気定番アイテム。今季はコレクションで使用されたウールブレンドの生地を展開。可憐なピンクは東京ミッドタウンの限定色。インナーを合わせて雰囲気をかえても。68,000円/ADEAM

2. スパンコールが煌めく
ハートのビジュアールバッグ

パリのエスプリとクラフト感が魅力の「ジャマン ビュエッシュ」。アイコンでもあるスパンコールバッグがハートのフォルムで登場。情熱的な赤と陰影のあるシルバーの2色。11月1日から、クリスマスまでの限定販売。(H16×W23×D6cm)各56,000円/Theatre H.P.FRANCE

限定にこだわって特別なひとつを

LIMITED ITEMS

ブランドやショップのこだわりが詰まった限定品。
東京ミッドタウンで見つけた今季注目のアイテムをご紹介します。

Photos : Hitoshi Fujimaki (FLAME) Styling : Kazuyo Tateishi Text : Hisami Kotakemori



2
Theatre H.P.FRANCE
テアトル アッシュ・ペー・フランス



EVENT INFORMATION

@DESIGN TOUCH

ポップアップショップも併設

GOOD DESIGN EXHIBITION 2019

「ここに来れば今年のデザインのトレンドのすべてがわかる」という国内最大級のデザインイベント。東京ミッドタウンの各所で最新の2019年度グッドデザイン賞受賞作品1000件以上をすべて紹介する。さらに国内外の受賞デザイナーや審査委員によるトークイベント、セミナー、ワークショップなども多数開催される。また、毎年好評を博している「グッドデザインストア」のポップアップショップが今年も登場。お気に入りのグッドデザインをその場で購入することができるのも楽しみだ。

期間：10月31日(木)～11月4日(月・振休)

時間：11:00～20:00 ※最終日は18:00まで。

※「ロングライフデザイン賞」展示は10:00～19:00

場所：東京ミッドタウン ホール&カンファレンス、アトリウム、キャンピー・スクエア、デザインハブ、21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー3

主催：公益財団法人日本デザイン振興会

上／2018年度グッドデザイン金賞「Gogoro Energy and Transportation Platform」

下左／2018年度グッドデザイン金賞「エンタテインメントロボット [aibo]」

下中／2018年度ロングライフデザイン賞「キャンバスオールスター」

下右／2018年度グッドデザイン金賞「ファスナー [Quick Free®]」



話題の世界巡回展が芝生広場に登場

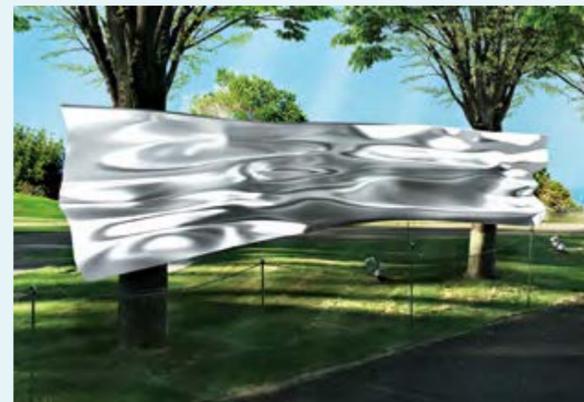
オーデマ ピゲ「時計以上の何か」

高級時計ブランド「オーデマ ピゲ」の世界巡回展が芝生広場に登場する。30m×45mの大きなパビリオン内は「12」のテーマ別に部屋が分かれ、来日した時計師がムーブメントやダイヤルの装飾を実演。ヴィンテージウォッチから現行モデルまで150本以上の時計も展示される。円環の展示スペースの外側では、電子音楽とビジュアルを融合させたアーティスト池田亮司氏の作品を上映。

期間：10月19日(土)～11月4日(月・振休)

時間：11:00～19:30(入場は閉館の30分前まで)

場所：芝生広場 ▶ 詳細はP.22へ



新作インスタレーションが今年も!

Moment

慶應義塾大学で教える傍ら、アーティスト、サイエンティストとしてさまざまな企業とのコラボレーションや世界的なアートフェスティバルで作品を発表し続けている脇田 玲氏。今年2月に開催された東京ミッドタウン×アルスエレクトロニカ「未来の学校祭」での「虚構大学」のパフォーマンスに引き続き、インスタレーションを実施。時をテーマにした脇田 玲氏初の作品を体感できる。

期間：10月18日(金)～11月4日(月・振休)

時間：11:00～21:00 場所：ミッドタウン・ガーデン



上／今年3月ミッドタウン・タワーB1に恒久設置された作品「絵画からはなれて(磊)(らい)」。下／2010年「TOKYO MIDTOWN AWARD」アートコンペで佳作を受賞した「es.kei.wai」。同じ時刻に異なる場所で撮影した画像を合成し、一人の人間の目は捉えられない空を再現した作品。



20番目のパブリックアート作品が登場!

まだ誰も見たことがない 世界に直面する

「これは何だろう?」——誰もが不思議な感覚にとらわれる。それは絵ではなく写真でもない。デジタル技術が可能にした「あり得ない密度」が、リアリティとは何かを問いかける。



石山和広さん

いしやまかずひろ/アーティスト。1981年、山形県生まれ。2008年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。近年の展示に、2019年「秀桜基金留学賞10年、そして「今」2006～2015」(岡山県立美術館)。主な受賞に、2018年「The Best of the Best TMA Art Awards」グランプリ受賞など。

人の目が捉えられないものを デジタル技術を駆使して表現

デザインとアートを通して、新しい日本の価値や感性を世界に発信している東京ミッドタウン。多くのパブリックアートが点在するが、その20番目の作品として設置されたのが、石山和広さんの「絵画からはなれて(磊)(らい)」だ。過去10回にわたり開催された「TOKYO MIDTOWN AWARD」アートコンペ受賞者を対象とした「The Best of the Best TMA Art Awards」でグランプリを受賞。インドの岩山を精緻に写し取ったこの作品。遠くから見た限りでは岩山を描いた1枚の絵画のように見える。しかし、近づくにつれてある種の違和感を覚えるに違いない。近づく写真のように見えてくるが、さらに近づく描写が緻密すぎて写真とは思えない。絵のように見えて絵ではなく、写真のように見えて写真でもない。それは膨大な数のデジタル写真を精密に組み合わせた超精細な現実の再現であり、絵も写真も超越した平面表現なのだ。「2010年に賞をいただいた空の作品でもそうですが、自分の手法で写真を撮ると、現場で自分が見るよりも、情報が多くなります。普通は逆です。自分が現場で体験したことに最もリアリティがあり後から写真を通して見るものはそれに劣る。写真のほうリアリティがあるという逆転現象を平面表現で突き詰めてみたのがこの作品です」 私たちはイメージでもこの作品を見ていることに気づかされる。この作品の違和感こそが、石山さんの思惑なのだ。

INFORMATION

Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2019



「デザインを五感で楽しむ」をコンセプトに2007年から毎年開催しているデザインの祭典。今年のテーマは、「FUSION(融合)」。私たちは、さまざまなものが飽和し、一個人ではあらたなものを生み出すのは難しい時代に生きている。そのような世界で、デザインと景色、サイエンス、遊びなどが融合することで生まれる新しい価値を探る。

期間：10月18日(金)～11月4日(月・振休)

※荒天中止

場所：東京ミッドタウン全域

TOKYO MIDTOWN AWARD 2019

今年で12回目となる「TOKYO MIDTOWN AWARD」。次世代を担うデザイナーやアーティストの発掘と応援、コラボレーションを目的にデザインコンペとアートコンペの2部門で開催。「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2019」期間中に受賞作品の発表、授賞式および展示が行われる。



「TOKYO MIDTOWN AWARD 2018」より。上左／青沼優介氏の「息を建てる／都市を植える」(アートコンペグランプリ)、上右／JDS「黄金比箱」(デザインコンペグランプリ)、下／授賞式の様子。

結果発表・授賞式：

10月18日(金)16:30～17:30(予定)

展示期間：10月18日(金)～11月10日(日)

場所：プラザB1



ART EXHIBITION



“少しずつ”を沢山に 旬を味わう 至福のひととき

SUSHI TOKYO TEN、

東京ミッドタウンに本格的な寿司店として
オープンした「スイトウキョウテン」。
極上のネタを楽しみたい人が連日集う、
人気店ならではの旬の魅力をご紹介します。

1. 一貫ずつの提供は、さまざまなネタを豊富に楽しんでもらうため。2. 白木を基調としたモダンな店内。3. カツオにはすり下ろしたタマネギを、アジにはネギの醤油漬けをのせるといったいい仕事。4. ふっくらと柔らかなアワビの煮物は定番「おつまみ」の一つ。寿司とつまみが交互に出されるので、飽きることなく箸が進む。
●ランチ／3,500円(約18種)
(平日フリーのみ)・7,000円(約27種)
(土日祝日・平日予約の場合) ディナー／7,000円(約27種類) ※すべて税抜き価格



Shop Data
SUSHI TOKYO TEN、
スイトウキョウテン
ガーデンテラス1階
☎03-5843-1690
11:00～15:00 (L.O.14:00)
17:00～23:00 (L.O.21:30)

「おまかせ」で味わう
季節の寿司と海の幸
江戸前の寿司を心ゆくまで堪能したい人におすすめなのがこの店。おまかせのみで、お品書きの類はいっさいない。それは「今日仕入れたなかで、最も旬なもの、美味しいものを召し上がっていただきたい」という、職人の心意気から生まれたシステムだ。寿司は一貫ずつ程よく紫を塗った状態で出され、刺身から始まって酢の物、茶碗蒸しといった絶品の「おつまみ」と交互に味わい、季節の果物が締める。その日のネタに合わせて店側が選んでくれる日本酒も楽しみのひとつだ。
実は、寿司の旬は11月。魚の種類が豊富で、大間のマグロやイクラの新物が出始めるのもこの頃という。寿司とつまみを交互に味わいながら「少しずつ」を沢山に。厳選された格別の味覚を堪能したい。



Part 2
佐藤時啓「呼吸する光たち」
(#275 Koto-ku Aomi) 1996年
シリーズ(光-呼吸)より
写真:佐藤時啓
©Tokihiko Sato

フジフィルム スクエア

写真歴史博物館 企画写真展

写真の錬金術 二人の表現者 「覚醒する写真たち」今 道子+佐藤時啓

80年代後半に異色の写真家として登場し、現在も国内外で活躍する今 道子と佐藤時啓。二人に共通するのは、写真以外の美術から、写真表現に行き着いたこと、三次元のオブジェや身体的運動を二次元に完結させていること、そしてプリント作品を最終形態としていることにある。二人の作品を通して「写真とは何か」を再考する。

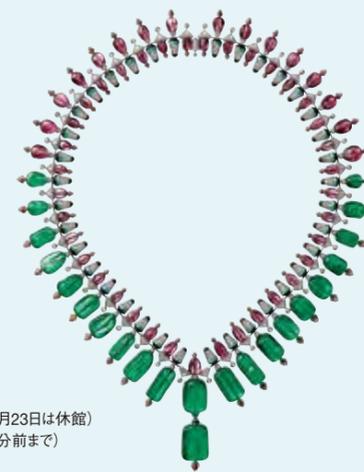
期間: Part1 今 道子「蘇生するものたち」～10月29日(火)
Part2 佐藤時啓「呼吸する光たち」10月30日(水)～12月27日(金) 会期中無休
時間: 10:00～19:00(入場は18:50まで)
場所: フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 料金: 無料
☎03-6271-3350(電話受付時間/10:00～18:00)
<http://fujifilmsquare.jp/>

国立新美術館

「カルティエ、時の結晶」

壮大な時間を経て生成された
宝石と世界各地の文化や自然
物などから着想を得たデザインが、卓越した職人技術によって結実したカルティエの宝飾。宝飾界に新しい風を吹き込み続ける想像力に満ちた美の秘密を、1970年代以降の現代作品に焦点を当て、紹介。カルティエの革新性、現代性、独自性を表現する世界でも初めての試み。

期間: ～12月16日(月)
(10月22日をのぞく火曜および10月23日は休館)
時間: 10:00～18:00(入場は閉館の30分前まで)
※金・土は20:00まで。
料金: 一般1,600円、大学生1,200円、
高校生800円、中学生以下無料
場所: 国立新美術館 企画展示室2E
☎03-5777-8600(ハロ-ダイヤル)
<https://Cartier2019.exhn.jp>



〈ネックレス〉カルティエ、2018年
ゴールド、ダイヤモンド、エメラルド、
スピネル、ガーネット、ターコイズ、オニキス
個人蔵 Vincent Wulverryck © Cartier



織部四方蓋物
桃山時代・17世紀
サントリー美術館

サントリー美術館

サントリー芸術財団50周年

「黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部 —美濃の茶陶」展

桃山時代には茶の湯のためのやきもの「茶陶」が日本各地で生まれた。特に岐阜県的美濃では、力強い姿、鮮やかな色、斬新な意匠をもつ茶陶「黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部」が大量に焼かれて流行。やきものを愛する人々にとって、美濃焼は憧れの存在になっていった。個性的で生き生きとした美濃焼の造形の魅力を堪能できる。

期間: ～11月10日(日)(11月5日をのぞく火曜休館)
時間: 10:00～18:00(入場は閉館の30分前まで)
※金・土、10月13日(日)、11月3日(日・祝)は20:00まで。
場所: サントリー美術館 ガレリア 3F
料金: 一般1,300円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料
☎03-3479-8600 <http://suntory.jp/SMA/>



会場風景
(ギャラリー2)
撮影: 浅川 敏

21_21 DESIGN SIGHT

「虫展 —デザインのお手本—」

展覧会ディレクターにグラフィックデザイナーの佐藤 卓氏、企画監修に解剖学者の養老孟司氏を迎えた展覧会。虫は身近にいながら、その生態は謎に包まれている。虫の色、質感、構造、また習性には私たちの想像を超える未知の世界が広がり、さまざまな創造の可能性が浮かび上がる。不思議な虫たちを「デザインのお手本」にする。

期間: ～11月4日(月・振休)(10月22日をのぞく火曜休館)
時間: 10:00～19:00(入場は18:30まで)
場所: 21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー1&2
料金: 一般1,200円、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料
☎03-3475-2121 <http://www.2121designsight.jp/>



とらや
トラヤ

秋を代表する果実を
表現した季節の和菓子

国産の新栗を使った栗の風味豊かな「栗粉餅」と、枝になったままで熟した柿をかたどった「木練柿」は、いずれも秋を代表するとらやの人気商品。「栗粉餅」540円 ※新栗の入荷～10月31日までの限定販売 「木練柿」450円 ※10月15日までの限定販売

Shop Data

ガレリア B1 / ☎03-5413-3541

JEAN-PAUL HÉVIN

ジャン＝ポール・エヴァン

ショコラティエらしい
繊細な味の組み合わせ

栗を使った秋の定番商品が今年もお目見え。アーモンド風味のサブレにマロンクリームとカシス、そしてビターチョコレート。素材それぞれの完成度が高く、一切れで満たされた気分になれる。リピート必至の品。「チュラン」550円 ※10月31日までの限定販売 (予定)

Shop Data

ガレリア B1 / ☎03-5413-3676



Toshi Yoroizuka

トシ ヨロイツカ

秋の味覚をひと皿に。
ラム酒が香る大人デザート

旬を迎えたさつまいもを贅沢に使った秋のデザート。濃厚なさつまいもクリームをサクサクのミルフィーユにのせ、ラム酒のアイスをアクセントに添えて。目にも美しい一皿を堪能したい。「デザート ロートンヌ」1,350円 (予価) ※11月中旬頃までの限定販売 (予定)

Shop Data

プラザ 1F / ☎03-5413-3650
(10月9日まで改装のため休業)

この時季限定！ 秋スイーツ百花繚乱

栗にりんごにさつまいも……。秋の食材を使った個性的なお菓子が勢ぞろい。パティシエたちがつくり出す美しいスイーツとともに、秋のティータイムを楽しんで。

Photos : Teruaki Kawakami Styling : Yuko Magata Text : Miki Numata

pâtisserie Sadaharu AOKI paris

パティスリー・サダハル・アオキ・パリ

濃厚な栗の味わいを
存分に味わえるケーキ

フランス人に好まれる、栗と赤いフルーツの組み合わせ。そこにタルトのサクサクとした食感とラム酒の芳醇な香りを加えたアオキ流モンブランは、味、食感、香りのバランスが絶妙。「マロン フリュイ ルージュ」830円 ※11月30日までの限定販売 (予定)

Shop Data

ガレリア B1 / ☎03-5413-7112



DEAN & DELUCA

ディーン & デルーカ

人気店がつくる秋限定の
マロンスイーツ

静岡の人気焼き菓子店「Grenoble」から、シナモン風味の「マロンケーキ」(右)と、ウイスキーが効いた大人味の「マロンアンブル」(左)が登場。国産の栗で作るマロンクラッセが、味の決め手。各1,500円 (ホール)、280円 (ピース) ※10月31日までの限定販売 (予定)

Shop Data

ガレリア B1 / ☎03-5413-3580

サン・フルーツ

SUN FRUITS

ぶどうとチーズの
幸せなマリアージュ

ふわふわのチーズスポンジで北海道産のクリームチーズを使ったクリームをサンドし、シャインマスカットをあしらったスイーツ。チーズの風味が、ぶどうのみずみずしさを引き立ててくれる。「シャインフロマージュ」700円 ※10月31日までの限定販売 (予定)

Shop Data

ガレリア B1 / ☎03-5647-8388



The Ritz-Carlton, Tokyo
"La Boutique"

ザ・リッツ・カールトン東京「ラ・ブティック」

栗と柑橘が奏でる
華やかなハーモニー

お店のシグネチャーでもあるキューブ型のケーキの新作。栗と柑橘は相性がよく、あと味がさわやか。(左)「チェスナッツ オレンジガトー・ド・ボワイヤージュ」1,115円 (右)「チェスナッツ柚子」1,000円 ※イトインの場合はサービス料別

Shop Data

ザ・リッツ・カールトン東京 45F / ☎03-6434-8711

オーデマ・ピゲ 時計以上の何か

「東京ミッドタウン」

生駒芳子が誘う
今見たいアート

TEXT BY YOSHIKO IKOMA



ミッドタウン・ガーデンの芝生広場に設置されるエキシビジョン会場。



左／緑を配した館内に150以上ものモデルが展示される。(2016年上海での同イベントより) 下／ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展で発表された池田氏の作品。



今回展示されるヘリテージコレクションより。右／オーデマ・ピゲが手掛けた最初の八角形の時計として記録される1917年製作のレディース・ウォッチ。上／1875年、同社創立の前に、創業者ジュール・ルイ・オーデマが時計製造修業の卒業を記念して製作したウォッチ。

「ART」

「MIDTOWN」

「LIFE STYLE」

「ART」

「MIDTOWN」

「LIFE STYLE」



marie claire編集長を務めたのち、2008年ファッションジャーナリストとして独立。ファッション、アートからエンカル、クール・ジャパン、伝統工芸の発信など、多方面で活躍中。

DATA

オーデマ・ピゲ
時計以上の何か



2019年10月19日(土)～11月4日(月・振休)
東京ミッドタウン 芝生広場
開場時間:11:00～19:30
※入場は閉館の30分前まで。
入場料:無料(予約は特設サイトから)
特設サイト:www.beyondwatchmaking.jp



1 土鍋「Meshi-nabe」3合炊き 10,000円/TIME & STYLE MIDTOWN 2 ドグリーンのカトラリーセット「フィリップ・スタルク カトラリーセット」5本セット3,300円/IDÉE SHOP 3 大阪錫器の錫の酒器セット「タンボセット 風花」23,000円/THE COVER NIPPON 4 薬味おろし金「本目立 純銅薬味おろし」亀、鶴 各2,100円、竹の薬味寄せ「薬味寄 淡竹」600円/日本橋 木屋 5 ミシェル・プラスの包丁右「No.2」27,000円、左「No.1」24,000円/HIDA 6 バイディームの「薬膳マルチポット」(1.5L、ティーフィルター付) 24,000円/Flagship 212 KITCHEN STORE

実りの秋を 味わうための名脇役

柔らかくつやつやと輝く新米、キノコや芋、栗、カボチャなど、豊かな実りを感じる秋の食卓。彩りも鮮やかな旬の食材を手に入れた日には、いつもよりいねいに食事の準備をして、ゆったりと過ごしたいもの。

そんなときに、機能的であることはもちろん、見た目にも美しいお気に入りの道具があれば、キッチンやテーブルでの時間がよりいっそう楽しくなるはず。

たとえば、しっとりとした手になじむハンドルに、切れ味も抜群のミシェル・プラスの包丁。ドリルデザインが手がけた笠間焼の土鍋は、スタイリッシュな佇まいでお米をふっくらと炊き上げてくれる。お酒や水をまるやかな口当たりしてくれる錫の酒器、

そして熟練の職人が一つひとつ手打ちで目立てた銅製おろし金ですりおろしたシヨウガやワサビは、繊維に水分がほどほどに残り、風味豊かに。

キッチンでもテーブルでも存在感を放つ美しく個性的な道具類は、食欲の秋を盛り上げる名脇役。「これを使って今度どんな料理を作ろう?」と考えるだけで、幸せな気持ちにしてくれる。そして手に取るたびに感じる程よい緊張感や、大切に手入れをする時間、使い込むほどに自分のもものなっていく過程も楽しめる。長く寄り添っていきけるツールが、心地よい暮らしへと導いてくれるのだ。手料理を囲みながら、大切な人たちと心豊かな秋のひとときを。

中田由美 Yumi Nakata



インテリアスタイリスト。建築を学んだ後、舞台照明のデザイン、プログラマーを経て、スタイリストに。雑誌、広告、CMのスタイリングを中心に、イベントの展示構成やウィンドー・ディスプレイなど空間やモノにまつわることを手がける。

DATA

IDÉE SHOP / ガレリア3F ☎ 03-5413-3455
THE COVER NIPPON / ガレリア3F ☎ 03-5413-0658
TIME & STYLE MIDTOWN / ガレリア3F ☎ 03-5413-3501
日本橋 木屋 / ガレリア3F ☎ 03-5414-2088
HIDA / ガレリア3F ☎ 03-5413-7637
Flagship 212 KITCHEN STORE / ガレリア3F ☎ 03-5413-7686

新連載

家時間をもっと楽しく! 中田由美が選ぶ暮らしの小物

DIRECTION & STYLING BY YUMI NAKATA

Present

TOKYO MIDTOWN STYLE / AUTUMN 2019

COVER INFORMATION

リング(右から時計回りに)[YG×イエローダイヤモンド] 22,454,546円、[WG×ダイヤモンド] 16,454,546円、[WG×ダイヤモンド] 38,727,273円、[WG×イエローダイヤモンド、ダイヤモンド] 10,818,182円 すべて「ザ グラフ アイコン」(グラフ) / ISETAN SALONE

※ WG = ホワイトゴールド YG = イエローゴールド

「The World of GRAFF」

グラフが ISETAN SALONE にてポップアップショップを10月16日～11月5日まで開催。問い合わせ: ☎03-6457-8633 (グラフ)

Photo : Hironobu Maeda (STIJL)
Styling : MAFUMI

CONTACT INFORMATION

ASPESI 六本木 / ガレリア 2F / ☎ 03-5413-5699
ADEAM / ガレリア 1F / ☎ 03-3402-1019
ISAI A Napoli / プラザ 1F / ☎ 03-6447-0624
ISETAN SALONE / ガレリア 1・2F / ☎ 03-6434-7975
Valextra / ガレリア 1F / ☎ 03-6459-2506
VIA BUS STOP / ガレリア 2F / ☎ 03-5413-3696
essence of ANAYI TOKYO / ガレリア 2F / ☎ 03-5647-8303
CABAN / ガレリア 1F / ☎ 03-3408-6705
The SECRET CLOSET / ガレリア 2F / ☎ 03-6721-1155
ZANELATO / ガレリア 2F / ☎ 03-6447-4830
JOHN LOBB / ガレリア 1F / ☎ 03-6459-2425
STRASBURGO / ガレリア 1F / ☎ 03-3403-0777
Theatre H.P.FRANCE / ガレリア 2F / ☎ 03-5413-0626
diptyque 六本木 / ガレリア 1F / ☎ 03-6804-5415
DRAWER / ガレリア 1F / ☎ 03-5786-4844
pas de calais / ガレリア 2F / ☎ 03-6455-5570
BEAMS HOUSE / ガレリア 1F / ☎ 03-5413-7690
FABIO RUSCONI / HB Show-case / ガレリア 2F / ☎ 03-3408-8682
ブレインビーブル / ガレリア 2F / ☎ 03-6804-5158
PELLICO / ガレリア 2F / ☎ 03-5413-7768 (ショップ)
☎ 03-5413-8258 (修理受付)
HELEN KAMINSKI / ガレリア 2F / ☎ 03-3470-3341
YELLOWKORNER / プラザ B1 / ☎ 03-5843-1765
IDÉE SHOP / IDÉE CAFE PARC / ガレリア 3F / ☎ 03-5413-3455 ☎ 03-5413-3454 (カフェ)
THE COVER NIPPON / ガレリア 3F / ☎ 03-5413-0658
STYLE MEETS PEOPLE / ガレリア 3F / ☎ 03-5413-3705
TIME & STYLE MIDTOWN / ガレリア 3F / ☎ 03-5413-3501
中川政七商店街 / ガレリア B1 / ☎ 03-6804-1310
日本橋 木屋 / ガレリア 3F / ☎ 03-5414-2088
HIDA / ガレリア 3F / ☎ 03-5413-7637
Flagship 212 KITCHEN STORE / ガレリア 3F / ☎ 03-5413-7686
SUSHI TOKYO TEN. / ガーデンテラス 1F / ☎ 03-5843-1690
サン・フルーツ / ガレリア B1 / ☎ 03-5647-8388
JEAN-PAUL HÉVIN / ガレリア B1 / ☎ 03-5413-3676
DEAN & DELUCA / ガレリア B1 / ☎ 03-5413-3580
Toshi Yoroizuka / プラザ 1F / ☎ 03-5413-3650
とらや / ガレリア B1 / ☎ 03-5413-3541
pâtisserie Sadaharu AOKI paris / ガレリア B1 / ☎ 03-5413-7112
グラン マリコール / ガレリア 2F / ☎ 03-6440-0056
ザ・リッツ・カールトン東京「ラブティック」/ ミッドタウン・タワー 45F / ☎ 03-6434-8711

STAFF

Publisher : Mitsui Fudosan Co., Ltd.
Tokyo Midtown Management Co., Ltd.
Editorial : Hearst Fujingaho Co., Ltd. Content Marketing
Hisami Kotakemori
Art direction : Takahito Noguchi
Design : Dynamite Brothers Syndicate

イベントやショップの案内、最新トピックスなど、お客様に役立つ情報をお届けします。

✉ メールマガジン
https://www.tokyo-midtown.com/jp/mail/

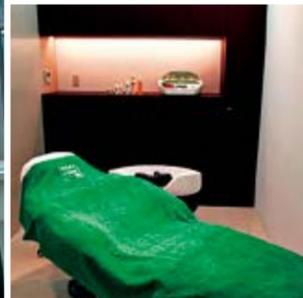
📘 公式 Facebook ページ
東京ミッドタウン / TOKYO MIDTOWN

【お問い合わせ】東京ミッドタウン・コールセンター
☎ 03-3475-3100 (受付時間 10:00～21:00)

『STYLE』へのご意見・ご感想をお聞かせください!

『STYLE』Vol.41 はいかがでしたか。ぜひ、ご意見・ご感想をお聞かせください。読者アンケートにご回答いただいた方の中から、抽選で素敵な商品をプレゼントいたします。ご応募は、<https://www.tokyo-midtown.com/jp/style41> よりアクセスいただきご希望のものをお選びください。応募締め切りは2019年10月25日(金)です。

※プレゼントの当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。



2
名様

グラン マリコール 「ポーテアロマティックコース」

パリを筆頭に、世界各国で愛されるマリコールの直営店。肌質にあわせてカスタマイズし、優しい香りによるリラクゼーション効果も高いベネシックススキンケアコース。

3
名様

中川政七商店街 「東京はしおき」

東京の都市としての成熟を支えた、5つの代表的な橋(日本橋、吾妻橋、永代橋、勝鬃橋、レインボーブリッジ)をモチーフにした箸置き。「TOKYO MIDTOWN AWARD 2017」デザインコンペ優秀賞。



5



6



7



6 pas de calais モノトーンが新鮮な ブロックチェックトップス

ウール、綿、麻と3種類の糸を使うことで、加工したとき縮率の違いで生地ふわっとした風合いが生まれる。こなれ感のあるVネックブラウスは、共生地のパンツやローブ風アウターもあり、セットで着ても素敵。22,000円 / pas de calais ●ガレリア2F ☎03-6455-5570

7 IDÉE SHOP 幅広いシーンで使える ベビリアルバカのスロー

クラフトマンシップが生み出す最高品質の南米ペルー産ベビリアルバカウールと北欧のモダンなデザインを融合。ソファやベッドカバー、大判ストールとしても。全4色展開。(H200×W130cm) (各)19,800円(エルヴァン デンマーク) / IDÉE SHOP ●ガレリア3F ☎03-5413-3455

Best Picks

TOKYO MIDTOWN STYLE / AUTUMN 2019

トラッドな チェックアイテムが旬!

2



1



3



4



1 PLAIN PEOPLE ビッグシルエットの マニッシュなブルゾン

ブラウン系の大判グレンチェックはグリーンやボルドーなど秋色のミックスカラーがポイント。イタリア製の厚手生地だからコート感覚で羽織れる。ワンピースやロングスカートに合わせてフェミニンに着こなして。69,000円 / ブレインビーブル ●ガレリア2F ☎03-6804-5158

3 essence of ANAYI TOKYO キルト風スカートに ドレープのディテールを

フランス トゥルニエ社に別注したチェック柄をフロントに、ドレープのある旬のデザインにアレンジしたスカート。チェックの糸軸を使ったフリンジが動きを添え、歩く姿を美しく引き立てる。42,000円(ANAYI) / essence of ANAYI TOKYO ●ガレリア2F ☎03-5647-8303

4 FABIO RUSCONI エナメルとのコンビで 可憐なチェックをレディに

履き心地に定評のある人気パンプスにチェック柄が登場。安定感のあるためのフレアヒールで横顔もおしゃれ。エナメルとのコンビがチェックを大人モードに変えて、華やぎを添えてくれる。(H3.5cm)26,000円 / FABIO RUSCONI/HB Show-case ●ガレリア2F ☎03-3408-8682

5 Theatre H.P.FRANCE ネオンカラーで旬の アクセントをひとさじ

1998年からの定番バッグ「リスボン」の新作。レザーに柄をプリントしてエナメル加工を施すという凝った製法で作られたチェックは角度や光によって色が変化する。(H15×W20×D7.5cm) 110,000円(ジャックル コー) / Theatre H.P.FRANCE ●ガレリア2F ☎03-5413-0626

2 ADEAM クールでエレガントな グレンチェックコート

取り外しのできるエコレザーを襟と袖口に配したトラッドなチェック柄コート。ストレッチがきいたスーティング生地を使用しているため着心地がよく、シルエットも美しい。ウエストをベルトでマークして女性らしい着こなしに。185,000円 / ADEAM ●ガレリア1F ☎03-3402-1019

深まりゆく季節に「距離感」を身に纏う



Photos by Robert Campbell

僕をコートで蓋ふ傘の雨の街へと出掛けます。

夏

は暑い。路上で人の側に立つのも息苦しく感じるから距離を置き、少し遠目に見ることが気持ちいい。風が吹けば麻のワンピースが一瞬膨らんだり、背抜き色の紺色スーツのベルトが翻るのを見ればこちらまでずっと涼しく感じる。距離があるから太陽に負けない明るい色や大きな柄が夏には向いている。

秋が深まるということは気温も湿度も下がり、気づかないうちに日照時間も短縮する。道で立ち話をしていると相手の近くへ寄りたくなる。若者が駅の改札口前で待ち合わせる時に自然と円陣を組むのを日本でしか見たことはないけれど、涼しい季節になると輪の幅がぎゅっと狭くなるのは分かる気がする。

人と人との間隔が狭まると夏には気づかずにいた生地の細かい模様であるとか、毛織物が一枚また一枚と重なることによってその織り方にまで目が届く。海の幸の種類も増え脂がのって美味しくなるのと同じように、目で見、身体に纏って楽しむ洋服も秋への入口、季節が深まっていく過程がいちばん豊かで好きである。

一昨年マンガに生まれ変わりベストセラーとなった吉野源三郎の小説『君たちはどう生きるか』（昭和十二年発表）の冒頭では、郊外に住む主人公の少年コペル君がある日、叔父と一緒に東京にある七階建ての百貨店に出かけ、屋上から細かい雨が降り続ける街の風景を見渡している。ビル群、



ロバート キャンベル
Robert Campbell

ニューヨーク市出身の日本文学研究者。江戸から明治時代の日本文学が専門で、特に19世紀の都市空間と人の心に強い関心を寄せている。また、文芸ジャンルを超えて、日本の文化、メディア、思想などにも造詣が深い。テレビでMCやニュース・コメンテーターなどを務める一方、新聞や雑誌の連載、書評、ラジオ番組出演など、さまざまなメディアで活躍中。愛猫の名はタ吉。

家々、眼下の道路を走る自動車や電車を眺めながら、コペル君は自分が何物かに思いを巡らせ始めるのである。一人の存在を海水の「二分子」として初めて感得する瞬間だ。「コペル君がまだ一年生だった去年の十月X日、午後のことです」。よく見ると下の大通りを同じ年くらいの少年が車道で自動車を避けながら懸命にペダルをこいでいる姿が見える。魚のように、潮流の波に「生きる」実体としてコペル君の目に映る。戦前の日本で、まだ珍しい高層ビルの屋上から雨に煙る東京の景色を見渡し、また眼下の一点に焦点を絞って観察する。コペル君が遠近という二つの視点をもつことの不思議と大切さを知ること、幼いなりに自分の人間性や連帯感、人類に包まれて生きているという実感を味わうことができた。その状況のなか、立ったまま叔父といっぱい話をする彼だが、自分たちの洋服にかかる雨粒の模様まで目に入るほど距離が縮まっていたのである。

「降っているのか、いないのか、見分けにくいほど細かな霧雨が、灰色の空から、静かに絶え間なくおりて来て、コペル君の外套がいのとうにも、叔父さんのレインコートにも、いつの間にか、霜をおいたように、小さな銀色の水玉がいっぱいにつきました」

秋の空こそ、黙って大通りを見おろす少年にとって初めて世界の愛おしさを身近に感じる大切な先生であった。